

# 六斎市復活プロジェクト事業

<飯山市本町商店街協同組合（飯山市）>

## 取り組みに至る背景・事業の目的

本町商店街は飯山市の中心市街地に位置し、長年地域の経済活動を支えてきたが、近年の景気悪化等により空地化が進み、人の流れが少なくなるとともに、地元のお年寄り等が身近で食料品を購入する場も減ってしまった。

そこで、商店街の新たなにぎわい創出に向けて、江戸時代に開催されていたという「六斎市」を現代に復活させるプロジェクトをスタートさせた。

六斎市では、地元の農産物や加工品を販売して地産地消を推進することにより、地域住民や観光客が地元商店、農家などの販売者とふれあいながら買い物できる場を提供し、将来的には新幹線飯山駅開業に向けて観光スポットとなる「朝市」への発展を目指す。

## 事業内容

<事業費 3,572 千円、支援金 2,374 千円>

### ○六斎市販売場所の整備

商店街の中心にある「ぶらり広場」に寺と城の町飯山をイメージできる販売場所を整備した。材料には県産材を使い、商店街組合員、まちづくり団体、地域住民が参加して組み立て作業を行った。

### ○六斎市にぎわい創出事業

地元商店や農家を中心に出店者を募り、毎月2と6の日に六斎市を開催した（6月中旬から12月まで34回開催）。また、六斎市のPRのため、のぼり旗、看板等を製作した。



【六斎市のにぎわい】

## 事業効果

- 安心、安全、地産地消、コミュニティを前面に出して「まちのマーケット」として地域住民の間で定着、来訪者も徐々に増え夕方2時間の間に約150人が訪れるようになった。
- 自由に使えるお休み処を用意しており、お茶を飲みながら井戸端会議を楽しむなど住民同士の貴重なふれあいの場としても利用されている。
- 平成21年度からはみゆき野青年会議所も参加し、スペシャルバージョンの「みゆき野六斎市」を開催、環境やまちづくりを考えるワークショップを同時に行うなどして多くの市民が参加するイベントになっている。
- 法政大学人間環境学部のゼミが六斎市をフィールドワークの場として活用し、講演会やまちおこしについてのワークショップを協働して開催するなど、大学との連携が生まれている。
- 北信地方事務所も間伐材を使ったマイ箸づくりとベンチづくりのイベントに協力するなど、六斎市を触媒としてさまざまな分野の人との交流、連携が着実に進んでいる。

## 工夫・苦労した点、課題、今後の取り組みなど

- 城下町の意識を醸成し、若者の意見にも耳を傾ける姿勢を持ちつつ、近隣の大型店と共存共栄を図りながら、商店街、ひいては地域のイメージづくりを行っていく。
- 新幹線飯山駅から商店街へ来訪者や観光客をどのように誘導するか、「朝市」の開催等による新たな商店街、地域の活性化の取り組みを実践していく。
- 大学、地域づくり団体などを通じた地域間交流、新幹線開通後を見据え都市との交流を大切にしていく。

### 【選定理由のポイント】

- 商店街をはじめとした地域住民が自らの手で六斎市の販売場所を整備するなど協働性が高く、また出店者や来訪者はともに増加しており、商店街のにぎわいの創出に成功している。
- 地域の農産物を積極的に活用・販売し、また地元の木材を使ってベンチづくりをするなど地産地消を強く意識しており、地域への波及効果が見込まれる。
- 地元自治体や青年会議所、大学などとの連携が拡大するなど、活動の幅が広がっている。